

文化保全による精緻な現代揚州の建設

～歴史と文化の「古都揚州」保存の構想と実践～

江蘇省揚州市副市長 聞 道才 (Wen Dao-Cai)

[2009 年 10 月 25 日於奈良]

尊敬する荒井知事殿、ご来賓の皆様方：

揚州市民にとって、奈良と揚州は、これまで切っても切れない深い歴史的絆を育んできました。遥か 1200 年前、高僧鑑真は、この揚州から日本へ旅立ちました。彼は、仏陀の信義を教え広めるため、5 回にわたる渡航失敗の苦難を忍び、終に奈良に辿りついたのです。今日、我々が共に鑑真和尚の故郷の地を踏みしめていますのは、今後継続して友誼を強め、縁を深めていく証だといえましょう。同時に、奈良と揚州が手を携えて、日本・中国並びに韓国地域の経済発展に、より一層貢献できるよう願っております。

揚州市は、中国国務院が 1982 年、初めて指定した「国家歴史文化名城」24 都市の一つです。揚州市は、6000 年余りに渡る文明史及び 2500 年近い都市史を持つ数少ない都市として、中国封建社会の繁栄と進歩に多大な貢献をしてきました。新たな時代に立ち揚州市は、現在、古都保全事業を重要視し、歴史継承・文明伝承の事業に尽力し、古都保全及び市民居住環境の改善に積極的に取り組んでいます。これが認められ、2006 年には国連より『人間居住環境賞』を授与されております。

一、中国でも異彩を放つ古都の一つ・揚州

① 交通の枢軸地と塩商により発展した独特の歴史

揚州の都市繁栄の歴史は 2500 年前に端を発しておりますが、特に、漢から隋、唐の時代及び清朝にいたるまでの興隆は目覚ましいものがあります。唐の時代、揚州は、中国で最も賑わう商業都市であり、国際港を擁すると同時に、海上シルクロードの起点でもありました。また、清朝特に康熙乾隆（こうきけんりゅう）時代 [1661～1795 年] に入っては、塩業が莫大な富を生み、人口 50 万人を抱える世界十大都市にまで成長しました。当時の揚州の塩税納税額は、全国財政収入の 4 分の 1 を占め、豪商によって造営された現存する風光明媚な楼閣庭園屋敷は、昔日の繁栄や贅沢を物語っております。

② 彩り豊かな揚州の文化芸術

揚州市が歴史上誇る詩歌、文学、書画、学問研究などは、バラエティに富んでいます。

特異な画風で一世を風靡した揚州八怪、考証学の揚州学派、弦楽と歌声を奏でる揚州演芸、玉器・漆器など優雅な技巧の揚州工芸品などです。

揚州は地理的に、城と河が寄り添う地点に形成された都市であり、蜀崗山に沿って南へと延びています。明確な機能区分からなる都市設計により形成されており、揚州庭園を特徴とする「南秀北雄」（“北方の雄大さと南方の秀麗さが一体となった” という意味）の建築様式は代表的で、それらは、緻密な計算による雄大さと明媚な景色をあわせ持つ配置構図から『家造りの匠は揚州にあり』の名を博しました。康熙乾隆時代の経済・芸術両面における最盛期の集大成であり、当時を最も如実に物語るシンボルであります。

③ 2つの代表的歴史遺産

揚州市において最も価値があるとされる2つの歴史物に、中国文明の頂点を象徴する揚州城遺跡と、1700Km以上に渡る京杭（けいこう）大運河の揚州市部分が挙げられます。

揚州城遺跡は、『一地域三城』とする土地の利を生かした明瞭な都市設計に基づいており、先の国家「第11次五カ年計画」（2006～2010年）大遺跡保護重点プロジェクトにおける100大遺跡の一つに指定されています。

北京と杭州を結ぶ京杭大運河は、紀元前に呉王・夫差が揚子江と淮川を結ぶためにここ揚州市邗溝（かんこう）を開削したことに始まり、隋の煬帝時代、本格的な大開通作業により完成した世界最古の運河です。つまり揚州は、京杭大運河の発祥地兼枢軸であり、邗溝はまさにその源なのです。これらの遺跡は、揚州市の歴史変遷の貴重な記録であり、考古学の見地から、非常に高い価値と研究意義を呈しています。

二、揚州古都保全における実践事例のポイント

① 全体計画・段階実施の計画体系

長年の古都保全に関する実践を通じて揚州市は、「全体管理、積極的保全、理に適った保留、全面改善」の原則を導き出しました。この原則に則り、唐宋城遺跡約18km²を保全地域に、明清古城約5km²の土地を重点保全地域対象と定め、『容貌を護って美しい表情を、揚州に調べを奏でる魂を宿そう』という全体構想を打ち立てました。こうして、都市化全体計画、古城保全プロジェクト、歴史地区管理規則、民家改造詳細規則という、段階的な一連の古城保全計画体制が形成されたのです。

② 住民たちの有機的配置がキーに

～古城から新城区への移転・古城保全の為の空間創造～

市中心から西方面に10km²にわたり開拓された新城西区には、コンベンションセンタ

一、駅、運動公園など多くの公共施設と、生態系に配慮された団地群が建設されました。一方、南方面へ揚子江沿いに開発された沿江産業帯には、古城及び大運河地区から、環境対策のため企業群が移転しています。また、都市の外郭部には19万㎡に及ぶ土地にマンションを建設し、これにより老城地区に住んでいた1800戸余りの生活困難や住居が不安定な「二重苦」を抱えた家庭の居住問題が解決しました。最後に、老城地区における41棟の高層官舎の住人及び一部の文化遺産指定建造物の住民は区外へと転居しました。

③ 修復により残す旧き風貌

～文化遺産・歴史建築・伝統的民家の修繕～

歴史市街の建物や伝統民家の風貌、当時の風情をよみがえらせるために、東関街、東園門地域の「一区画十箇所」プロジェクト工事を行いました。同時に、「外観は維持したまま内装設備は統一」との政府からの要求により、基準に該当する伝統民家に対し、費用負担政府補助30%、本人出資70%の割合で、修繕工事を施しました。これら一連の試みにより、古城地区に住む3000戸余りの居住環境は現代化されました。

④ 人間第一の、環境と共存した協調発展

～古城施設の衛生状況を改善、居住環境の向上を図る～

老城地区にある300余りの街路に対して、街灯を配置し、給水・下水道施設(公共トイレ含む)の敷設、ゴミ箱の設置など衛生環境を整備しました。また、浄水網を配備して汚水処理施設を建設し、川岸への堰の造営などとともに、さまざまな緑化作業を施しました。今日、大運河、小秦淮川、北城川などの老城地区の給水経路が稼動し、清らかさを取り戻した河川は、市民にとって身近な存在となっています。

⑤ 古城保全と文化発信の同時展開

～「文化博覧城」の建設、歴史文化の内包を紹介～

現在、揚州文化博覧城建設計画(2006～20年)を推進中で、既に古城文化を発信するための40に及ぶ博物館が相次いで開館しています。古城地区内にある300を超える文化財や遺跡、名人邸宅や名園、老齡の古木、特色のある街路などに対して、案内板や碑を立てて歴史的背景の解説を紹介し、理解を深めてもらうよう働きかけています。また、揚州の誇る無形文化財は多く、国が最初に無形文化財リストに登録したうちの15項目、江蘇省が登録した23項目が揚州のもので、これらの伝承、展示には力を入れています。

三、揚州ならではの古都保全への取り組み

古都は、生きる歴史の所産です。古都保全の意義とは、歴史や文明の糸を紡ぐ作業で

あると同時に、人類全体に対する尊重だとも言えます。この観点から、古都揚州を保全し、次世代に継承していくことは、辞すことのできない揚州市民が担う責任だと我々は考えています。

① 全面保全の理念の確立

文化遺産だけでなく、市の街並み自体も保存対象です。また、地下にもまだ数多くの遺物が埋蔵していると考えられます。これらを全面的に保全していくことが大切です。また、遺跡保存に当たっては、考古学的に裏付けられた専門的かつ有効な展示方法を意識し、古物の価値選定は厳重な基準で管理されています。

② 古都の個性を強くアピール

歴史は都市の根であり、文化は都市の魂です。揚州市は引き続き、「人文」「生態系」「精緻」「最適居住」の都市イメージの実現と合わせて個性ある魅力を発信し、この都市が、風格と学問的雰囲気が漂う秀麗な郷里となる努力を惜しまず、全力で邁進していく所存です。

③ 一貫した「人が中心」の精神

古城の風貌及び伝統的生活スタイルの保護と同時に、古城地区の給水・ガス供給や文化展示など、人々を取り巻く公共サービス施設の改善にも積極的に取り組みます。また、古城保全事業が、都市産業の発展と共存するよう積極的に推進しつつ、市民には十分な雇用機会を提供し、人々が現代都市生活を享受できるようにしています。観光で訪れた方はもちろん、揚州発展の風情を思い起こし、古城の歴史文化を存分に味わって頂けることでしょう。

④ 長期的視野で着実に固める保全体制

古城保全事業は、一朝一夕に完成するものではなく、積年の努力を経て初めて実現するものです。よって、長期的視野に立った古城保全計画を確立し、健全で安定した段階的な保全システム及び体制を組み立てる必要があります。そして、専門家による諮問委員会の意見を組み入れ、広く市民の参加を促しながら、一步一步古城保全体制を形成することが必須なのです。

古都揚州が今後、充実した持続的開発を経て、市民の心が休まる楽園となり、最適な居住空間を誇る精緻都市に発展していくことを、我々はここに強く宣言いたします。

以上

翻訳：北京海比思文化伝播有限公司